

家庭数

令和4年10月25日  
(2022年)

保護者の皆様へ

吹田市立吹田第六小学校  
校長 田 渕 久 美 子

## 令和4年度 全国学力・学習状況調査の分析について

全国の児童・生徒の課題改善に向けた教育及び教育施策の成果と課題を検証し、児童・生徒の学力及び学習状況の改善を図るために、『全国学力・学習状況調査』が本年4月に実施されました。8月下旬には自らの学習到達状況を正しく把握するため、個人票とともに、問題用紙と正答例をあわせてお返ししました。吹田市教育委員会においても、今回実施した調査についての成果および課題・問題点を分析し、吹田市教育委員会のホームページに掲載されております。

この調査は、小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、今年度の実施教科は国語・算数・理科の3教科ですが、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。

全国における調査を客観的に分析することにより、どのような指導形態がより効果的であるかをしっかりと見極め、学校全体あるいは小学校・中学校における連続した取り組みとなるよう、具体的な指導法の工夫改善を図ってまいります。

各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願い致します。

## 1 教科に関する調査の分析

### (1) 国語

#### 《概要》

★すべての領域で全国値を下回っている。

#### 《各領域における成果と課題》

#### 言葉の特徴や使い方に関する事項

##### 全国値を下回っている

- ・話し言葉と書き言葉の違いを理解することに課題がある。
- ・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉えることに課題がある。
- ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことに課題がある。

#### 我が国の言語文化に関する事項

##### 全国値を下回っている

- ・漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことに課題がある。

#### 話すこと・聞くこと

##### 全国値を下回っている。

- ・必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心に捉えることに課題がある。
- ・互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめることに引き続き課題がある。

#### 書くこと

##### 全国値を下回っている。

- ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることに課題がある。
- ・文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章の良いところを見つけることに課題がある。

#### 読むこと

##### 全国値を下回っている。

- ・登場人物の相互関係について、描写を基に捉えることに課題がある。
- ・登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることに課題がある。
- ・人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることに課題がある。

#### ◇国語科における成果と今後の指導改善点

- ① 「言葉の特徴や使い方に関する事項」は、知識及び技能の観点となり基礎学力に課題があります。特に漢字を正しく書くことに大きな課題があります。漢字を覚えて書くだけでなく、作文やレポート等にも自然に使える活きた力が必要です。
- ② 「読むこと」における、思考力・判断力・表現力に課題があります。文章を読む際に、何が書かれているかという内容面だけでなく、どのように描かれているかという表現面にも着目することが大切です。物語などの全体像を具体的にイメージすることにもつながります。
- ③ 後半の問題に無解答が目立ちます

以上、3点を国語科における重点課題と考え、以下の改善を図ります。

引き続き、言語活動や表現活動を豊富に取り入れ「言語能力」の向上を図るとともに、充実感や達成感から自信につながるような、教育活動を行います。

今年度、SE担当教員がモジュール学習（15分間の言語活動）の授業デザインを考え充実を図っています。今後も改善を繰り返し、子どもたちの語彙力獲得や言語能力の育成に励みます。

一人1台端末（iPad）を、より効果的に活用し、児童自身が自ら学びたいと感じる授業改善に努めます。

子どもたちの活字離れを改善しようと、読書支援者とともに、図書室の利用率や本の貸し出し率を上げる努力をしています。今後は保護者の皆さまとも協力して子どもたちの読書への関心を高めていきたいと思えます。

問題の後半に多い無解答率は、粘り強さの課題であると考えます。最後まであきらめずやり遂げることで、得られる達成感を味わえる取組みを重ねること。また、困難なことにも立ち向かう自信や気力を養うよう努めます。

## （2）算数

### 《概要》

★すべての領域で全国値を下回っている。

### 《各領域における成果と課題》

#### 数と計算

全国値を下回っている。

◎被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることはできている。

- ・二つの数の最小公倍数を求めることに課題がある。
- ・示された場面において、目的にあった数の処理の仕方を考察することに課題がある。
- ・表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることに課題がある。

#### 変化と関係

全国値をやや下回っている。

- ・百分率で表された割合を分数で表すことにやや課題がある。
- ・示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解することに課題がある。
- ・伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述することに課題がある。

#### 図形

全国値を下回っている。

- ・図形を構成する要素などに着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解することはできている。
- ・正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述することに課題がある。
- ・示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断することに課題がある。

#### データの活用

全国値を下回っている。

- ・表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることに課題がある。
- ・分類整理されたデータ基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察することに課題がある。
- ・目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることに課題がある。

### ◇算数科における成果と今後の指導改善点

- ① 「図形」領域に課題があります。図形の学習では、図形を構成する要素などに着目し、図形の意味を理解したり、図形の性質を確かめたりすることが重要です。
- ② 「変化と関係」領域では、知識としての課題がありますが、知識を獲得してなくとも、今回の問題は解くことができたと考えます。この問題を吹六っ子の特徴的な課題として、最終ページにピックアップ問題として取り上げ、分析説明します。
- ③ 数学的に記述(説明)する力に課題があります。理論的・発展的に考察して数学的に表現することが必要です。

上記、3点を算数科における重点課題と考え、以下の改善を図ります。

論理的な思考が身につくよう、授業において、児童が多様な考え方に触れていく機会をより一層つくっていきます。また、問題を読み解く力は国語科である「読むこと」領域の力が必要であるため、さらに国語科授業の充実を図ります。

計算の仕方を習熟するだけでなく、図や式、言葉などを使って文に表す機会を（問題解決型学習も含む）増やします。

具体的な日常の場面に対応させながら、考えさせる指導を取り入れます。

### (3) 理科

#### 《概要》

★すべての領域で全国値を下回っている。

#### 《各領域における成果と課題》

##### 「エネルギー」を柱とする領域

全国値をやや下回っている。

- ・重ねた日光と的の温度についての問題を的確に把握し、問題を解決するために必要な結果を適切に記録したものを選択することに課題がある。
- ・日光が直進するといった光の性質について理解することに課題がある。
- ・缶の色と水の温度変化との関係についての実験で得た結果を、分析して、解釈し、具体的な数値や分析した内容に基づいて、結論の解釈をすることに課題があるが、全国値をやや上回っている。

##### 「粒子」(物資)を柱とする領域

全国値を下回っている

- ・メスシリンダーの正しい扱い方を身に付けることに課題がある。
- ・砂糖水を凍らせた物が水に沈んだという情報を、自分や他者の気づきを基に分析して、解釈し、適切な問題を見だし記述することに課題がある。

##### 「生命」を柱とする領域

全国値を下回っている。

- ・ナナホシテントウに関する問題を解釈するために必要な観察の視点を基に、解決の道筋を構想することに課題がある。
- ・昆虫の育ち方と食べ物についての表に昆虫を加えているとき気付いたことを基に、適切な問題を見出すことに課題があるが、全国値をやや上回っている。

##### 「地球」を柱とする領域

全国値を下回っている。

- ・天気と気温の変化を観察した結果を、分析して、解釈し、問題に正対した結論を導き出すことはできている。
- ・冬の夜の、気温の変化の仕方に対する他者の予想を基に、その予想が確かめられた場合に得られる結果を見通すことに課題がある。
- ・冬の数日間の天気と気温について整理した資料を、分析して、解釈し、冬の晴れた夜を示す部分を読み取ることに課題があるが、全国値を上回っている。
- ・水が水蒸気になって空気中に含まれていることを理解することに課題がある。

#### ◇理科における成果と今後の指導改善点

- ① どの領域においても、知識及び技能の観点に課題があります。特に、メスシリンダーといった器具の名前や扱い方、また、日光が直進するという基礎的な知識のもとに、観察や実験が成り立ちます。
- ② 「粒子」(物資)を柱とする領域と、「地球」を柱とする領域の思考力・判断力・表現力に課題があります。
  - ・自分や他者の気づきを基に、分析して解釈する力。
  - ・観察や実験などで得た結果について、分析して解釈する力。この力のもとに、問題を見いだすことができたり、より妥当な考え方をくりだすことができます。



「科学的に探究する学習において、観察結果・実験結果・自分や他者の気づきを分析し、結論の根拠として表現する力」が、大事であり課題です。

上記、2点を理科における重点課題と考え、以下の改善を図ります。

理科の授業において、観察や実験結果から分かった具体的な数値や、それを分析した内容を根拠として表現する場面を設定します。

自然に触れる体験活動の機会を増やし、身近な自然の事物・現象について興味を持たせる努力をします。

一人1台端末の活用を効果的します。日常生活で見かける植物や昆虫について、デジタル図鑑を用いて360°の視点から観察をしたり、拡大して細部まで観察したりする活動を取り入れます。



## 2 生活習慣や学習環境「質問紙調査」に関する調査の分析

## 《学習環境・生活環境について》

### 《教科・学習について》

#### 国語科・算数科・理科における意識を問う設問

##### 全国値を上回っている設問

- ◇算数の勉強は好きですか
- ◇算数の勉強は大切だと思いますか
- ◇算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えていますか
- ◇算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか
- ◇理科の授業では自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか

##### 全国値をやや上回っている設問

- ◇国語の勉強は大切だと思いますか
- ◇算数の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思いますか
- ◇算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか
- ◇算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか
- ◇理科の勉強は好きですか
- ◇理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことがわかったのか考えていますか

##### 全国値とほぼ同じ設問

- ◇国語の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思いますか
- ◇算数の授業の内容はよくわかりますか

#### 教科学習全般における意識を問う設問

##### 全国値を上回っている設問

- ◇道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか

##### 全国値をやや上回っている設問

- ◇学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

#### 主体的に学び、表現しようとする「チカラ」を問う設問

- ☆自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している、肯定的な回答が8割以上あり、全国値を上回っている。
- ☆課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる、肯定的回答は9割以上であり、全国値を上回っている。
- ☆各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っている、肯定的回答率は約7割で全国値とほぼ同じである。
- ☆自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っている児童は8割いて、全国値を上回っている。
- ☆学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているとの肯定的回答率は10割に近くいて、全国値を上回っている。

#### 自分で計画を立てる「チカラ」を問う設問

- ★家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）の設問では、全国値を下回り、半数の児童が計画を立てていないことがわかる。
- ☆総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組むことができている、全国値を上回っている。

#### 自分との違いを認め合う「チカラ」を問う設問

- ☆友だちと協力するのは楽しいと思いますかの設問では、全国値とほぼ同じで、9割以上の児童がそう思っている。
- ☆自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますかの設問では、約7割の児童が肯定的である。
- ☆あなたの学級では、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると、感じている児童は9割近くいる。
- ★地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあると、応えている児童は少なく、課題があり。

#### メディアバランスについて考え行動する「チカラ」を問う設問

- ★普段（月～金）、1日当たり、どれくらいの時間、テレビゲームをしますか（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）では、3時間以上との回答が、約6割であり、課題がある。
- ★読書は好きですかの設問で、肯定的な回答は6割に留まり、課題がある。

## 上記4つ以外の項目で、本校の重点取組みに係る「チカラ」を問う設問

☆学校に行くのは楽しいと思うと肯定的回答をした児童は9割近くいて、全国値を上回っているものの、100%をめざしたい。

★自分にはよいところがあると思う肯定的回答率は8割に届かなく、自己肯定感の低さには課題がある。

☆先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思っている児童は、9割以上いて、全国値を上回っている。

☆将来の夢や目標をもっている児童は、8割以上いて全国値を上回っている。

☆自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている児童が8割以上いる。

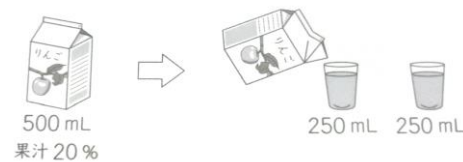
☆難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していると肯定的回答をした児童は、8割近く、全国値を上回っている。

★人が困っているときは、進んで助けている児童は8割いるものの、全国値を下回っている。

★いじめはどんな理由があってもいけないことだと回答した割合は9割以上いるが、100%をめざしたい。

### 〈算数科 ピックアップ問題〉

りんごの果汁が20%ふくまれている飲み物が500mLあります。  
この飲み物を2人で等しく分けると、1人分は250mLになります。



250mL の飲み物にふくまれている果汁の割合について、次のようにまとめます。

250mL は、500mL の  $\frac{1}{2}$  の量です。このとき、

上の㊦にあてはまる文を、下の1から3までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 飲み物の量が  $\frac{1}{2}$  になると、果汁の割合も  $\frac{1}{2}$  になります。
- 2 飲み物の量が  $\frac{1}{2}$  になると、果汁の割合は2倍になります。
- 3 飲み物の量が  $\frac{1}{2}$  になっても、果汁の割合は変わりません。(正解)

この問題は、子どもたちが、通常の生活場面で何度も体験しているはずです。2Lや1.5Lのジュースを、コップに分けることはあると思いますが、その場面と結びついていません。「果汁」や「割合」といった言葉や「20%」という数字に戸惑ったと考えます。この問題は「知識」を問うものですが、私たちの普段の生活には、たくさんの知識があり、その知識を生活の中で自然に獲得する力があることを意識させたいとつくづく感じました。

## 3 今後の取組み … 「児童」をいつも通りの「子ども」にして記載します

「あたたかい聴き方・やさしい話し方」につつまれた学校づくりをめざします。

「聴いて 考えて つなげる」～資質・能力を高める学び方の研究～を推進します。

本校の子どもたちにとって、「言語能力」は最重要課題です。今年度は重点取組の1つとして「言語力の向上」を挙げ、力を入れています。教科を問わず、これまで以上に、授業の中で話し合い活動や書く活動、発表の機会を増やし、言語活動の充実を図ります。また、SE担当教員を中心に系統立てた学びを確立します。

主体的に学び、表現しようとする子どもは増えています。

それは「学びに向かう力」を、1番に考え、教員が一丸となり、授業に集中できるような工夫をしたり「教室はまちがうところだ」「まちがってもいい」と、「あたたかい聴き方・やさしい話し方」につつまれた学校づくりをしてきた成果であると考えます。次のステップは、児童の前向きな姿勢を、学力や能力に繋ぐような授業展開をめざします。

昨年度は子どもたちとともにビオトープをつくりました。今年度は畑をつくりました。子どもが自ら主体的に、友だちと協働して手掛けた環境です。校内に豊かな自然ができました。そこには、植物が育ち、生物が住んでいます。「学びの場」として、有意義な活用と「触れ合いの場」「コミュニティの場」としての育みも考えています。

デジタルシティズンシップ教育等、学校生活全般を通して、ルールの大切さを考えさせるとともに、規範意識を高め、生活の中で活かしていく力を育みます。

多様性教育を柱に、教育活動全体を通して、自尊感情や自己肯定感、人権意識を高め、いじめを許さない仲間づくりをめざし続けています。その成果は毎年伸びています。今後も友だちとともに学び合い、喜び合う素晴らしさを実感させ、豊かな心・思いやりの心を育みます。

道徳科の授業やいじめ予防授業、セサミストリートカリキュラムの充実と研究を図ります。

家庭学習の習慣が身に付くよう、ご家庭と連携しながら「学びに向かう力」の、さらなる育成を図ります。

子どもたちの自己有用感を高める取組みを実施してきました。また、一人ひとりを認め、一人ひとりを大切にしてきました。その成果は「質問紙調査」からもわかります。今後も教職員一同、愛情たっぷりに子どもたちと関わっていきます。